



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.hoyukai.org/>

第178号

発行:2021年2月15日

発行責任者:

特定医療法人社団 鵬友会

湘南泉病院のこの一年の歩み(コロナ禍の中で)

湘南泉病院 院長 末盛 彰一



神奈川県においては、緊急事態宣言が発令され一か月が経過しました。新規感染者数は確かに減少に転じていますが、高齢者施設、また、病院に於けるクラスターは多く、予断を許さない状態であることは変わりありません。紙面をいただきましたので、湘南泉病院の院長として激動のこの一年間を振り返りたいと思います。

昨年2月、ダイヤモンドプリンセス号における新型コロナウイルス集団感染が発生後、当院も3月に入り新規入院患者の個室対応等の対策は行っていました。が、尿路感染で紹介入院していた患者の新型コロナウイルス肺炎が数日後の令和2年4月17日に発覚しました。その後、入院患者および病院職員に新型コロナウイルス陽性者が発生しクラスターと認定されました。終息宣言を出した6月25日まで、入院制限、救急外来中止で細々と外来診療を継続するという状況が続いたわけです。一日2回の院内対策会議、泉区保健所・横浜市医療局コロナ対策チーム訪問指導などを経て乗り切りました。7月に入り病院機能の回復に努めましたが、コロナ禍の被害は甚大であり、再度院内感染を起こしたら立ち直れないという危機感がありました。そこで、強化された感染防御体制の維持、職員のクラスター病院という意識からの脱却、そして病院としての地域貢献の回復をどうするかを検討した結果、コロナ対策の神奈川モデルの重点協力病院に立候補することとなり認可されました。行政からの給付金を活用し、さらなる感染防御体制整備を行いました(陰圧室整備、院内PCR検査、ICTによるPPE着脱指導と感染教育等)。

A病棟はコロナ専用病棟(疑似症患者)となりました。12月23日から、コロナ陽性患者用2床、疑似患者用19床を擁する重点協力病院Aに認定され現在に至っています。

現在、新規入院患者は、すべて個室隔離入院となり、院内で抗原検査、PCR検査を行います。重症化が予測される陽性患者は基幹病院に搬送します。陽性でもコロナの特殊治療を必要としない患者は当院で診ています。院長として、また、コロナ禍に遭遇した一医師として、コロナ禍において短期間にこれほど変貌を遂げた病院はそうはないのではと思っています。湘南泉病院として、極めてラッキーだったのは、横浜市病院協会、そして横浜市医師会の要職で非常に多忙な理事長が感染症専門医であるということ、そして、クラスターの中でも逃げることなく強固な感染防御集団に変貌してくださった有能な職員に恵まれていたことです。院長として心より感謝いたします。

今後の展開は、メディアで連日討論されているように、なかなか予測が困難です。ワクチンで終息するのか、あるいは変異株による第4波が来るのか。ただ、はっきり言えるのは、我々が常に改善の努力を継続することができれば、どのような苦境も乗り越えることができるということです。頑張ってください。

最後に、湘南泉病院に対して暖かいご支援をいただいた当法人の皆様、そして、折に触れ暖かい励ましをいただいた周辺住民の皆様にご心より御礼申し上げます。

特集 花粉症

花粉症は花粉に対するアレルギーで、スギ・ヒノキ・ブタクサ・カモガヤなどの花粉によって、鼻症状（くしゃみ発作・鼻水・鼻づまり）や眼症状（目のかゆみ・涙目など）が起こります。花粉症は花粉に反応する特殊な抗体（IgE抗体と呼ばれるもの）を役に立つと信じて（実は害になっているのですが）体がせっせと作っている状態です。日本人の20%程度が花粉症といわれており、なかでもスギ花粉症が有名です。

◆2021年シーズンの花粉飛散傾向

2021年春の花粉飛散量は、広い範囲で例年より少ない見込みです。一方、昨シーズンよりかは多くなります。（昨シーズンは例年よりかなり少ない）

花粉の飛散量は昨年夏の気象条件が大きく影響します。気温が高く、日照時間が多く、雨の少ない夏は花芽が多く形成され、翌春の飛散量が多くなるといわれています。2020年の夏は、7月に活発な梅雨前線の影響を受け、「令和2年7月豪雨」など、東日本と西日本を中心に長期間にわたり大雨となりました。8月は一変して、太平洋高気圧に覆われて、東日本では厳しい暑さが続き、気温がかなり高くなりました。日照時間は、期間を通して全国的に平年並みとなりました。

◆花粉症対策

【マスク】

花粉症対策としてマスクを使用されている方は、コロナ禍に限らず多いのではないのでしょうか。マスクを使用することで、吸い込む花粉の量を約1/3~1/6に減らすことができるといわれており、特に鼻の症状が気になる方に効果的です。大事なことは顔にフィットするものを選ぶことで、横に隙間ができるとそこから花粉が入ってしまいます。

【洋服選び】

外出するときの洋服によって、家に持ち込んでしまう花粉の量に違いが出る事をご存知でしょうか。一般にウールなどの素材は花粉が付着しやすく、綿や化学繊維などは付着しにくいといわれています。

【メガネ】

ある実験では、メガネを使用しない場合に比べて、通常のメガネでも目に入る花粉量はおよそ40%減少し、防御カバーのついた花粉症用のメガネではおよそ65%も減少しました。また、花粉症の症状があるときのコンタクトレンズには要注意です。コンタクトレンズによる刺激がアレルギー性結膜炎を悪くしてしまう事もあります。

【うがい】

花粉時期になると喉がイガイガする、こんな経験はないのでしょうか。鼻から吸い込んで奥に付着した花粉は、粘膜の働きで喉の方へと送られます。かぜのシーズンだけでなく、家に帰ったらうがいの習慣を続けて、喉の花粉を洗い流しましょう。

【薬】

アレルギー症状を抑える薬はいくつかあります。スギ花粉が本格的に飛ぶ1~2週間前（2月上旬頃）から第二世代抗ヒスタミン薬と呼ばれる薬を内服していると、花粉が飛んできた時には症状を抑える状態になって、ひどい状態にならずにすみます。最近は眠気の副作用が少ない薬や鼻づまりにもある程度効く薬などあり、自分にあった薬をお勧めします。

